

主 文

本件申立を棄却する。

理 由

本件申立理由は、末尾添付の裁判の解釈を求める申立書記載のとおりである。

しかし、裁判の解釈の申立は、刑訴法五〇一条に明定されている如く、「刑の言渡を受けた者」が、「裁判の解釈について疑があるとき」、「言渡をした裁判所」に対しなすべきものであり、本件申立は同条の要件に該当しないから、不適法として棄却すべきものである。

よつて、裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三三年一月二四日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	石	坂	修	一
--------	---	---	---	---

裁判官	島			保
-----	---	--	--	---

裁判官	垂	水	克	己
-----	---	---	---	---